

令和5年3月24日審議

1	申請者	精神科医長	西田 拓司
	2022-16	患者学習プログラムMOSESの有用性に関する研究	
	研究の概要	てんかん患者はしばしばてんかんに関する知識が十分でないことが知られている。適切な知識の習得には確立された患者学習プログラムが必須である。MOSES(モーゼス)は既に海外で有用性の評価が定まっている。本研究では、日本語版MOSESの有用性を評価することを目的とする。	
	判定	承認	本申請は承認された。
2	申請者	精神科医長	西田 拓司
	2022-17	心因性非てんかん性発作(Psychogenic Nonepileptic Seizures[PNES])に係る診療の実態およびPNESを呈した患者の生活の質(Quality of Life[QOL])に関する追跡調査	
	研究の概要	心因性非てんかん性発作(Psychogenic Nonepileptic Seizure [PNES])は、運動、感覚あるいは認知機能の突発的変化、また時に意識障害を伴う異常な行動や体験をみるもので、外見からてんかん発作と見誤られることが稀ではなく、抗てんかん薬による治療が不適切に開始される場合も度々である。 PNES患者の診察の実態ならびに治療的介入あるいは自然経過により患者の状態や生活の質(Quality of Life [QOL])がどのように変化したかを10年間に亘り追跡調査する。	
	判定	承認	本申請は承認された。
3	申請者	精神科医長	西田 拓司
	2022-18	てんかん外科治療前後の精神医学・認知・心理・社会的問題に関する研究	
	研究の概要	てんかん患者には様々な精神医学的、認知的、心理社会的問題がみられる。外科治療はてんかん治療の一つとして確立されているが、術前術後にどのような精神医学的、認知的、心理社会的問題がみられるか十分に分かっていない。本研究は当院で外科治療を受ける患者の術後後の精神医学的、認知的、心理社会的問題を明らかにし、適切な介入を行うことを目的とする。	
	判定	承認	本申請は承認された。
4	申請者	精神科医長	西田 拓司
	2022-19	学校教員のとんかんに関する知識と考え方のアンケート調査	
	研究の概要	てんかんのある児童や生徒が安全に充実した学校生活を送るためには、学校教員が十分なてんかんに関する知識をもち、児童や生徒に対してポジティブな考え方で接することが重要と考えられる。学校教員に対するてんかんの講演会が教員の知識の向上と考え方の変化に有用であるか調査する。	
	判定	承認	本申請は承認された。

令和5年3月24日審議

5	申請者	精神科医長	西田 拓司
	2022-20	障害者職業カウンセラー補のてんかんに関する知識と考え方のアンケート調査	
	研究の概要	てんかんのある人が就労するには、支援者がてんかんに関する正しい知識をもち、てんかんのある人に対してポジティブな考え方で接することが重要と考えられる。障害者職業カウンセラーは障害者の就労を支援する専門職である。障害者職業カウンセラー補に対するてんかんの講義が知識の向上と考え方の変化に有用であるか調査する。	
	判定	承認	本申請は承認された。
6	申請者	精神科医長	西田 拓司
	2022-21	てんかんでみられる精神症状のグルタミン酸受容体自己免疫学的機序に関する研究	
	研究の概要	てんかんには幻覚、妄想、うつ症状、不安症状など様々な精神症状が出現するが、その機序は不明である。 近年、辺縁系脳炎においてNMDA型グルタミン酸受容体抗体に対する自己抗体が発見され、辺縁系脳炎の精神症状発現にグルタミン酸受容体自己免疫学的機序が推定されている。 本研究では、てんかんでみられる精神症状にグルタミン酸受容体自己免疫学的機序が関係する可能性を明らかにする。	
	判定	承認	本申請は承認された。